

### 松くい虫被害

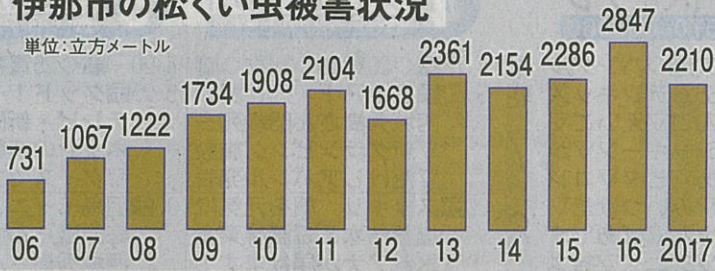
## 伊那市と信大 実証実験

# 市対策協で報告

# ドローン抽出木に感染確認

### 伊那市の松くい虫被害状況

単位:立方メートル



伊那市と信州大学が同市富県で行っている小型無人機ドローンを使って松くい虫の被害状況を調べる実証実験で、上空からのセンサー調査で感染木として抽出された地点に市職員が実際に足を運んで調べたところ、木の状態や周囲の状況などから4地点の40本について感染木と断定した。市は40本を6月中旬に伐倒駆除する。17日に開いた市松くい虫対策協議会で報告した。ドローンによる被害木抽出の有効性を示し、さらに被害の拡大がないか追跡調査していく考えだ。

(勝村誠之)

先進光学衛星に搭載される高性能センサーと同等の小型装置を搭載したドローンを用いた実証実験は、約5分の松林で実施。昨年9月にドローンを飛ばして行い、信大山岳科

学研究所の加藤正人教授が開発した被害木抽出技術で調べられている。

その結果、2167本のうち健全木は1910本で、感染木は151本、枯死木10本、枯損木96本に分類された。

市耕地林務課の職員が今月7日と14日、抽出データを基に現地を調べ、葉の変色や、近くに枯れた木があるなど明らかに周囲とは違う木を感染

木として確認。近年見つかったいなくなった標高920付近での感染も分かった。白鳥孝市長は協議会で「新しい技術により、今までの目視では分からなかった部分が分かるようになってきている。判断を早めになら対応していきたい」と話した。

昨年度、市内の松くい虫被害は2210立方メートルで、過去最高だった前年度に比べて637立方メートル減少した。同課は「気象が影響しているのでは」と分析するが、5年連続で2000立方メートルを上回った。枯損木の処理費は4749万円。危険なエリアの処理が増えたため前年度を317

万円上回り、6年連続で増加した。

今年度もアカマツの有効活用も図りながら樹種転換と効果的な伐倒駆除を進め、樹幹注入による被害の未然防止も図る。



児童らが大切に育てて満開を迎えた西春近南小のアンネのバラ

### 「アンネのバラ」満開

伊那市西春近南小学校で、大切に育てているアンネのバラが満開を迎えた。児童が「バラ園」と呼ぶ体育館前の花壇には、淡いオレンジ色、赤色、赤色、赤色のバラが咲き、子どもたちが目を輝かせている。

アンネのバラは「日記」で知られる作家のシゲル愛のシンボル。上伊那地方のふる「アルプス千定会長」が贈った。同校中心になり、花の摘み取り、老朽したバラの製作中が、児童は次々「いい句を寄せた。花張ったというさん(〇)は、いろんな色がある

## イリス見頃

中川村片桐横前の農業知久島一さん(74)の自宅横の畑で、ジャーマンアイリスの花が見頃を迎えている。今年の開花は今月上旬で、例年と比べてほぼ同じ。10軒近くある畑には約320種類、約60

知久島さんは20年以上前、当時勤めていた会社の同僚から株を譲り受けて栽培を始めた。花の形や色に魅了されて仲間と株の交換をしたり、新品種を購入したりして数を増やしていった。畑は「知久島

花は品種によって咲く時期が異なり、今は白やピンク、黄色などの中生種が花盛り。知久島さんは栽培するジャーマンアイリスの記録を毎日付けており、16日現在153種類が開花した。またつぼみの

10月28日に諏訪市のヨットハーバーを発着点に行う第30回諏訪湖マラソン大会(諏訪圏健康推進協議会主催)の地元先行枠、直接持ち込み枠の受け付けが21日午前9時から始まる。持ち込み枠は同日のみ。いずれも先着1000人。参加料は5000円。ふるさと納税の返礼品

## 諏訪湖マラソン 先行受け付け

市町村で配布して必要事項を記入添えて本社(諏訪湖総局(岡谷市田島野茅市本町西)那市西春近)に提出と納税枠は諏訪上寄付した人が対今回から郵便振